



皆野中だより

9月号



令和6年9月2日発行 第6号

皆野町立皆野中学校 TEL 62-0432 FAX 62-0076

【校 訓】剛き意志 深き愛 自由の胸 純なるこころ

【学校教育目標】「主体性」「社会性」「将来性」を培う生徒の育成

【めざす学校像のキーワード】心理的安全性とウェルビーイング

生徒数 1年76名 2年73名 3年85名 合計234名

期待は重荷になる 応援は力になる

校長 板倉邦弘

夏季休業中には、パリオリンピックや甲子園の全国高校野球選手権大会が行われ、テレビで観戦した人も多いと思います。オリンピックでは、判定や SNS による誹謗中傷の問題もありましたが、最高峰のレベルで競い合う選手の姿に、たくさんの感動を与えてもらいました。特に日本代表選手には、力と技だけではなく、「心」で臨む姿の美しさを感じました。8月28日から始まったパリパラリンピックにも注目しています。

8月7日に始まった甲子園の高校野球では、各都道府県の代表校が全力でプレーする姿に魅了されてしまいました。そんな中で私が今年注目したのは、ベンチ入りしてグラウンドで躍動する選手の姿ではなく、アルプススタンドで「応援団」として声援を送るベンチ入りできなかった部員達の姿です。どの生徒もレギュラーとなって、あるいは背番号をもらってベンチ入りし、甲子園に行く夢を持って入学したはずです。全国には、中学卒業と同時に親元を離れ、遠く他県等から入学している生徒がたくさんいます。夢かなわずベンチ入りできなかった時、特に3年生であれば、どんな気持ちでアルプススタンドに立っているのでしょうか。本当はグラウンドでプレーするために入学・入部したのに、素直に応援したり喜んだりできるのでしょうか。心の狭い私はそんなことを考えてしまいます。

そんな中で、滋賀学園高校の荒井浩志さんのことを知りました。あの「キレキレダンス応援」で有名になった生徒です。彼は三重県から滋賀学園高校に野球をするために入学しました。レギュラーにもなれず、ベンチ入りもできないとなったとき、彼はふて腐れるどころか、全力で仲間を応援すると決めました。応援で仲間の100%の力を120%にしたい。仲間が活躍すると、あんなすごい選手と競ったのだと自分も誇らしい気持ちになる、とテレビ番組のインタビューに答えていました。私は夏季休業中、冬季オリンピックの金メダリスト・小平奈緒さんの講演を聴く機会がありました。「『期待』を背負うと重荷になる。誰かが望む自分になろうとするのは苦しい。でも『応援』を抱くと、自分が望む自分になろうとする力になる。」と話していたことを思い出しました。

今日から始まる2学期は、体育祭をはじめ新人兼県民スポーツ大会、駅伝競争大会、文化祭といった学校内外の大きな行事があります。3年生は自分の進路選択に向けて、より一層学習に身を入れる時期となります。周囲の大人、特に保護者の方々は、お子さんに大きな「期待」を背負わせてしまいがちです。その「期待」がプレッシャーとなってお子さんを押しつぶしてしまうことがないよう、「応援」で力を与えたいものです。様々な場面で生徒の皆さんが、100%の力を120%出せるよう、私たち教職員も「応援」していきます。